

## 問題点と対応方法

# Nuendo 2.2.0.33

Nuendo 2.2.0.33で確認されている既知の問題と対処法を下記にまとめました。

問題点	対処方法
NuendoからエクスポートされたAES31ファイルを再度インポートするとエラーメッセージが表示される場合があります。	エラーメッセージが表示された場合でも、AES31ファイルは正しくロードされますので、エラーメッセージは“continue”ボタンでスキップして無視してください。
DTSのエクスポートモードLRS L+R+Sでは、いくつかの機種ハードウェアDTSデコーダーをご使用の場合、視聴できない場合がございます。	残念ながら現在明確な対処方法はございません。
2つのMIDIパートのギャップがある場合、両パートをスコアエディタで開くと次の問題が生じます：2つのMIDIパートのギャップ間にノートを挿入した場合、そのノートは消えてしまいます。2つ目のMIDIパートにコードシンボルを挿入しても、2つのMIDIパートを糊ツールで結合させた時点で消えてしまいます。	MIDIパートが存在していない箇所にノートやコードシンボルは挿入しないでください。
Dolby Digital waveファイルをインポートした場合、音が歪むことがあります。	AC3ファイルをご代用ください。
MIDIトラックを追加することにより、Direct Music MIDIポート（例：MIDEX 8）がアクティブになりますが、その際、システムが一時的に停止してしまいます。その場合、サンプルレートの設定が変更されてしまったり、ロックしなくなることがあります。	Device Setup/VST Multitrackにてリセットをおこなってください。
9-pin device windowにて1時間はやくタイムコードが表示されてしまうことがあります。	残念ながら現在明確な対処方法はございません。
MIDIトラックがオーディオトラックの上にある場合、オーディオのクオンタイズが正常に機能しない場合があります。	オーディオトラックがMIDIトラックの上にくるように配置し直してください。
Tascam DA 98のトラックアーミングが正常に機能しません。その場合、他の9 Pinデバイスにも影響を与えてしまうこともあります。	残念ながら現在明確な対処方法はございません。
VSTiのオンスクリーンキーボード、またはパッドからMIDIレコーディングをおこなう際、信号がループしてしまうことがあります。	Cycle ModeをOFFにしてください。
MPEG 1ビデオファイルのインポートができない場合があります。（Mac版のみ）	読み込みをおこなう前にビデオファイルをQuicktimeフォーマットに変換してください。

<p>パンチイン/アウトを使用してレコーディングをおこなった場合、指定した範囲とファイル長が異なる場合があります。</p>	<p>タイムポジションは正確であってもタイムスタンプが不正確に表示される場合があります。パンチインポイントとレコーディング開始時間に大きな差異がみられる場合、Lロケータを少しはやめに設定してください。</p>
<p>(ビデオトラックにビデオファイルが存在する場合) ビデオファイルに対してプールのPrepare Archive機能が正常に動作しません。</p>	<p>手動でビデオファイルをプロジェクトフォルダにコピーしてください。または、ビデオトラックにビデオファイルが存在しない状態でPrepare Archiveをおこなってください。</p>
<p>ビデオウィンドウ(Direct Show Player)を開いた場合、またはビデオファイルをインポートした場合、ASIOサウンドカードのサンプルレートが変更されてしまうことがあります。</p>	<p>ASIOサウンドカード以外のサウンドカード(オンボードでも構いません)をWindowsサウンドの優先するデバイスとして設定してください。</p>
<p>FireWire出力でビデオファイルのプレイバックをおこなうと音とびが生じることがあります。(Mac版のみ)</p>	<p>パフォーマンスの問題です。より圧縮率の少ないビデオコーデック(例:DVフォーマット)をご使用ください。</p>
<p>マーカートラックでPaste Time が機能しません。</p>	<p>代わりにInsert Silence機能をご使用ください。</p>
<p>Step Designer MIDI pluginのpattern changeオートメーションが録音されません。</p>	<p>Pattern changes機能を使用してMIDIノートとしての録音をおこなってください。</p>
<p>OpenTLファイルのインポートをおこなった場合、プロジェクトのスタートタイムが不正確になる場合があります。</p>	<p>Project Setupウィンドウでプロジェクトスタートタイムを手動で設定し直してください。</p>
<p>Nuendoとオーディオカードのサンプルレートが異なっている場合、プレイバック/パフォーマンスに問題が生じることがあります。(Mac版のみ)</p>	<p>外部機器をクロックマスターに設定されている場合(例:ワードクロックなど)Nuendo側ではサンプルレートの変更(例:48 khz から44,1 khzに変更した場合など)に関する通知を表示しません。この場合、プレイバックなどに影響を及ぼしますので、Project Setupウィンドウで適切なサンプルレートに設定されているかご確認ください。</p>
<p>外部機器からクロックを受けている状態で、NuendoのProject Setupウィンドウでサンプルレートを変更すると、MOTU PCI 324インターフェイスドライバーがクラッシュしてしまうことがあります。</p>	<p>こちらは互換性の問題となります。MOTU社のドライバーアップデートにて改善予定です。</p>
<p>MidexシリーズのMIDIインターフェイスをご使用の場合、ミックスダウンしたオーディオデータの長さが不正確になることがあります。OSのDirect Musicコンポーネントがオーディオエンジンに影響を与えてしまうことがあるからです。</p>	<p>こちらの問題が生じる場合は、DirectMusicポートの代わりにWindowsMIDIポートをご使用ください。詳細はFAQの「MIDIインターフェイスについての重要なお知らせ」をお読みください。</p>
<p>起動時に接続されたオーディオインターフェイス(例:MOTU 2408)の電源が入っていない場合、クラッシュすることがあります。(Mac版のみ)</p>	<p>起動前にオーディオインターフェイスの電源が入っていることをご確認ください。</p>
<p>オートメーションが不正確に反映される場合があります。</p>	<p>レイテンシーが大きく設定されている場合、オートメーションが不正確になる場合があります。レイテンシーを下げてください。</p>

Halion 2.xがインストールされていると、Halion 1.xが含まれるCubase SX 1.xのプロジェクトをインポートした場合、pending connectionsになってしまうことがあります。	MIDIコネクションを手動で再設定後、プロジェクトを保存し直してください。
いくつかのプラグインで数値入力後、[ENTER]キーで決定すると、クラッシュすることがあります。(Mac版のみ)	[ENTER]キーの代わりに[RETURN]キーを使用するようにしてください。
有効になっている9-pinデバイスがオフになっている場合、または接続されていない場合、プロジェクトが開かないことがあります。	9-pinデバイスと同期する設定にしたプロジェクトを読み込む際には、9-pinデバイスが接続され電源が入っていることをまずご確認ください。その後、9-pinデバイスと同期しない設定にしてプロジェクトを保存し直してください。
間違ったGeneric Remoteのプリセットがプロジェクトに保存されることがあります。	プロジェクトを開き、正しいプリセットに設定し直してください。
「隠す」設定をしたはずのミキサーチャンネルが表示されることがあります。	ミキサーウィンドウを閉じた状態でプロジェクトを保存し直してください。
付属のサウンドのテンプレートファイルからプロジェクトを作成した場合、VST Connectionの設定を変更するとクラッシュする場合があります。	その場合、テンプレートを選択する前にあらかじめVST Connectionの設定をおこなっておいてください。
MIDIミキサーでMIDIチャンネルのフェーダーをリンクさせた場合、正常にリンクしない場合があります。	値がOFFに設定されているフェーダーとはリンクしないでください。数値のレベルに設定されているフェーダーは正常にリンクします。
古いMagnetoプラグインを使用するとクラッシュすることがあります。	標準搭載のMagnetoプラグインをご使用ください。
デュアルモニター環境で作業後、保存したプロジェクトファイルをシングルモニター環境で開くと、いくつかのウィンドウが表示されなくなることがあります。	保存時にウィンドウが” Always on Top” の状態ではないことをご確認ください。
編集対象にロックされたトラックが含まれる場合、いくつかの編集機能(例: Split at Cursor, Split Loop)が機能しません。	トラックのロックを外すか、ロックされたトラックを編集対象より下の位置に移動させてください。または、はさみツールをご使用ください。
VSTiのフリーズ後に“Disk Full”メッセージが表示された場合、プレイバックがおこなえない場合があります。	プロジェクトの保存をおこない、閉じた後、再度開いてください。
HDDに余裕があるのに、VSTiのフリーズ時に“Not Enough Disk Space”と表示される場合があります。	プロジェクトの長さを短くしてください。
VST System Link時にスレーブシステム以外ではナッジのアップ・ダウン([CTRL]+[NUM+], [CTRL]+[NUM-])を受け付けません。	ナッジはスレーブシステムでおこなってください。
Cubase 5.xソングをインポートした際にクラッシュする場合があります。	Cubase 5.xソングをインポートする前にCubase 5.xで” Audio Mix”トラックを削除してください。多くの場合、これで解決できます。

WMVビデオファイルを読み込むとオーディオ部分が抽出できない場合があります。	読み込みをおこなう前に他のソフトなどでオーディオトラックを分離させてください。
VST System Linkで” Activate Asio Port for Data only” が有効になっている場合、フリーズすることがあります。	もしこのような問題が生じる場合、このオプションを無効化してください。
WindowsからMacへプロジェクトを移行した場合、VSTiが再生されない場合があります。(その場合MIDIトラックは” Pending Connections” になります。)	VSTiのMIDIコネクションの再設定をおこなってください。
同一のポートをオーディオとVST System Linkの両方に使用している場合、同期の問題が生じることがあります。	その場合VST System Link用にポートを割り当ててください。
VST System Linkで同期時にスレーブシステムがマスターシステムの” Preroll” に追従しません。	VST System Linkで同期時は” Preroll” を使用しないでください。
オーディオのパートやイベントがレイヤー化されている場合、プロジェクトウィンドウ上で表示されている波形とは異なった信号が再生されてしまうことがあります。	オーディオのパートやイベントをレイヤー化することは避けてください。
複数のプロジェクトを切り替えながら使用した場合、Mackie Controlがレスポンスしなくなることがあります。	Mackie Controlの” Motors” ボタンを押してください。
マーカーウィンドウが前面に表示されている場合、UNDOができなくなることがあります。	UNDOをおこなう前にマーカーウィンドウを閉じてください。
3連符のクオンタイズを有効としている場合、ステップ入力が正常に機能しない場合があります。	残念ながら現在明確な対処方法はございません。
スコアエディタのページレイアウトモードにてトラック上の全てのバースの歌詞を選択して他のトラックへAlt+ドラッグでコピーすると、選択されたバースの最終部分のみしかコピーできません。	残念ながら現在明確な対処方法はございません。
フォルダトラック内のサブトラックを使用していない場合、Duplicate (複製) 機能が正常に機能しない場合があります。	残念ながら現在明確な対処方法はございません。
フォルダトラックを縮小した場合、フォルダトラックが消えてしまうことがあります。	フォルダトラックは縮小しないでください。万が一、このような症状になった場合は、UNDO機能で復活させることも可能です。
“zoom to event”のキーコマンドが逆に機能します。	残念ながら現在明確な対処方法はございません。
MPEG1のビデオファイルをインポートした場合、オーディオ部分が抽出できません。	残念ながら現在明確な対処方法はございません。
“Video for Windows” のプレイバック方式ではMPEG1ビデオファイルが正常に再生できません。	他のプレイバック方式を使用してください。
MIDIトラックのディレイ値を1000 ms以上にした場合	可能であれば、MIDIトラックのディレイ値は1000

合、MIDIタイミングが正常に保たれなくなります。	ms以下に設定してください。
UADプラグインを使用している状態で、プロジェクトウィンドウを閉じずにNuendo/SXを終了するとクラッシュする場合があります。(Mac版のみ)	Nuendo/SXを終了する前にプロジェクトウィンドウを閉じてください。
外部機器から(ワードクロックなど)クロックをとっている場合で、WMA Proフォーマットへエクスポートする際のサンプルレートと一致していない場合、音が歪んでしまうことがあります。  この症状はNuendo 9652カードなどで起こりえます。	エクスポートをおこなう前にオーディオカードの同期設定を“Master“に設定してください。
Edit/Range/Insert Silence機能は適用後すぐにプレイバックに反映されないことがあります。	Insert Silenceはオーディオイベントを少しずらし、元に戻すと適用されます。
サンプルエディタで十分に拡大できていない場合、ヒットポイントが編集できない場合があります。	ヒットポイントが編集可能な状態になるまで拡大をおこなってください。
Multiprocessingを有効している場合、Rewireチャンネルにクラックンノイズが混入することがあります。(Mac版のみ)	Rewireチャンネル使用時はMultiprocessingを無効化してください。
Sync ONの状態で作成されたプロジェクトを開いた場合、システムがハングアップする場合があります。	“Devices”メニュー内のTime Base 9 Pin Panelを閉じた状態でプロジェクトを開いてください。
キーコマンド”input location”でマイナスの小節をロケートした場合、クラッシュする場合があります。	キーコマンド”input location”を使って0:1:1:0以前の小節にロケートしないでください。
タイムコードが00:00:00:00以下(例: 23:59:00:00)から始まる場合、Time Base Synchronizer / VST Linkを使用する同期が適切におこなえません。	残念ながら現在明確な対処方法はございません。
“Import Audio CD”機能の仕様について: この機能は現在、外付けのUSB CDドライブをサポートしておりません。	この機能を使用した場合、誤動作の原因となりますので、ご注意ください。
Steinberg Midex3や8をDirectMusicのMIDIポート経由で使用した場合、Sysexのデータ受信に問題が生じる場合があります。	DirectMusicのセットアップにてMidexのDirectMusicポートを無効化してください。代わりにWindowsMIDIセットアップにてMidexのポートを有効化してご使用ください。